

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 30 号
2011 年 6 月 13 日

| 1

震災から3カ月の節目 第10陣が出発

派遣延べ人数は約 18,400 人に

東日本大震災の発生からちょうど3カ月となった11日、連合救援ボランティア隊の第10陣(6/11-18)が東京を出発しました。今回の派遣人数は334名と、ゴールデンウィークと重なった第5陣(336名)に次ぐ規模となっています。参加者はさっそく、各地で民家の片づけ、側溝清掃、避難所での炊き出し、ボランティアセンターでの支援物資配布、ボランティア器材貸し出し作業などに取り組んでいます。

3月31日のボランティア派遣開始から2カ月半が経過し、この間の派遣人数は2,960名、延べ人数では18,417名(人数×活動日数)を数えています。

【内訳】

岩手県 1,079 名(延べ 6,330 名)

宮城県 895 名(// 5,687 名)

福島県 986 名(// 6,400 名)

※いずれも 6/13 現在



参加者の声 ～岩手・住田拠点から～

第9陣(2011.6.3～6.10)は、住田ボランティアセンター(五葉地区公民館)を拠点に大船渡市を中心に活動しました。大船渡社会福祉協議会の依頼を受け、連合だけでなく、他の団体や個人ボランティアのみなさんと一緒に個人宅の片付けや側溝・被災自動車のナンバープレート外しなどを行いました。

活動は真夏日になるほどの暑さのなか、全員が真っ黒になりながらの作業でした。水分補給や休憩を小まめにとりながら熱射病等に注意しながら行いました。ナンバープレート外しでは多くの被災者と会話ができ、すこしでも被災者の心情に寄り添えたのではと思います。

今次派遣団では、陸前高田・釜石・大槌町を視察する機会がありました。活動していた大船渡市とは被害状況も大きく異なり、大槌町では火災の爪痕をじかに見ることができました。また気仙地区協議会事務局長の吉野さんのお話を聞くことができ、被災者の生の声、報道では報じられていない声を聞くことができ、ことばにならない感情がこみあげ、これから私たちが伝えなければならないことを学びました。このボランティアを通じて、参加者それぞれが多くのことを学び、経験し、考えたことと思います。参加者一人ひとりが大きな『おみやげ』を持ち帰ります。被災者と直接関わり、復興のすこしでもチカラになれたことを本当にうれしく思った活動でした。

《日本教職員組合 丸橋 健一さん》



■この集積所に集められた被災車両は約3,000台。ここから廃車手続きをする車を探し、ナンバープレートを外す。